

## Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



## 1. マーケット・レート

			10月7日	10月8日	10月9日	10月10日	10月11日	Net Chg
Forex	USD/BRL	Spot	2,2060	2,2060	2,2040	2,1790	2,1770	-0,0020
	USD/YEN	Spot	96,75	96,92	97,37	98,17	98,58	+0,4100
	EUR/USD	Spot	1,3578	1,3571	1,3523	1,3530	1,3551	+0,0021
	BRL/YEN	Spot	43,88	43,84	44,12	45,03	45,30	+0,2700
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,17	1,20	1,32	1,38	1,41	+0,0287
		1Year(p.a.)	1,45	1,54	1,60	1,65	1,65	+0,0027
	Real Interest	6MTH(p.a.)	9,64	9,65	9,66	9,83	9,89	+0,0645
		1Year(p.a.)	9,96	9,94	9,95	10,15	10,24	+0,0886
Stock	Bovespa		52.417	52.312	52.548	52.997	53.150	+152,98
Bond	CDS Brazil 5y		166,13	165,17	164,17	164,17	153,87	-10,2920
	Global 40		117,250	118,034	117,250	117,750	117,750	u.c,

\* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインデイケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィcerまでお問い合わせ下さい。



## 2. 主要経済指標

## 3. 要人コメント

イベント なし	予想	実績	前回	トニビニ伯財務相	レアル相場のボラティリティーは低下している。
------------	----	----	----	----------	------------------------

## 4. 週間市況、トピックス

- 今週の為替相場は U\$1=R\$2.2120 で寄り付いた。
- 週初は米デフォルト（債務不履行）を回避できる兆候が見られない中、様子見する投資家が多く見られ、レアル相場の流動性は限定的となった。レアルは寄付き後、週間安値となる U\$1=R\$2.2210 を付けたが、伯中銀によるドル売り介入に加え、大口の資金流入が見られる、2.20台後半まで買い戻された。
- 週央にはイエレン氏が米 FRB の次期議長に氏名されることが決まったことから米国が直ちに金融緩和を縮小するとの懸念は遠のきリスク資産の買いが見られたほか、伯中銀によるドル売り介入を受けてレアルがやや買われる展開となった。更に米 FOMC 議事録が発表され、政策当局者の大半は債券購入ペースの縮小が年内に始まる可能性が高いとの認識が示されたが、レアル相場への影響は限定的となった。
- 翌 10 日には前晩ブラジル中銀による 50bp の利上げが発表され、ブラジルの政策金利（SELIC）は市場予想通り 9.50% となったほか、伯中銀によるドル売り介入を受けてレアルは急伸した。更に米新規失業保険申請件数が予想比悪化したことを受け、米資産購入縮小懸念が薄まり、レアルは週間高値となる U\$1=R\$2.1690 まで続伸した。
- 週末にかけては方向感に乏しくレアルは 2.1800 を中心に上下し、結局 U\$1=R\$2.1770 で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧説を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成されたものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生じるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

# Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



## 5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	期間	予想	前回
10/14	貿易収支(週次)	Oct 13	--	\$1854M
10/14	登録雇用創出合計	Sep	154.393	127648
10/15	小売売上高(前月比)	Aug	0.1%	1.9%
10/15	小売売上高(前年比)	Aug	4.7%	6.0%
10/15	広義小売売上高(前年比)	Aug	-2.2%	3.7%
10/15	税率	Sep	84500M	83956M
10/16	FGVインフレ率IGP-10(前月比)	Oct	1.17%	1.05%
10/16	FGV CPI IPC-S	Oct 15	0.42%	0.38%
10/16	CNI産業信頼感	Oct	--	54.2
10/16	経済活動(前月比)	Aug	-0.10%	-0.33%
10/16	経済活動(前年比)	Aug	1.20%	3.38%
10/17	FIPE CPI-週次	Oct 15	0.30%	0.29%
10/17	COPOM Meeting Minutes			
10/18	IGP-M Inflation 2nd Preview	Oct	0.91%	1.36%
10/18	IBGEインフレ率IPCA-15(前月比)	Oct	0.39%	0.27%
10/18	IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	Oct	5.70%	--

## 6.来週の為替市場注目点

予想相場レンジ : 2.16-2.26

今週は米政府機関一部閉鎖を受けて市場では様子見する投資家が多く見られ、レアルの流動性とボラティリティーが先週に比べて更に低下した。リスクオフモードが続く一方で、米政府機関の閉鎖、予想比増加した新規失業保険申請件数などを受けて米金融緩和縮小が先延ばしとなる可能性が高まったほか、薄商いでのドル売り介入を受けてレアルは6月以来の高水準を更新する展開となった。低い流動性が続く中、伯中銀によるドル売り介入の効果は大きく、足許ではレアル高をサポートすると考えられるが、この動きは限定的となる可能性が高い。米財政協議の進展が今週末にも見られるとの期待もあり、その場合には徐々にドル買いが見られると予想され流動性も回復するであろう。来週は国内ではCOPOM議事録や小売売上高が注目される。海外では14日が米祝日で市場が休場となるほか、延期された雇用統計の発表が予定されているが、政府機関の閉鎖が統一されると再度延期されることになる。